

調査結果の解説

人口

(1) 人口と面積

総人口は、443,766人、前回より11,440人減

平成22年10月1日現在の国勢調査による本市の総人口は、443,766人で前回の455,206人（琴海町を含む）と比べると、11,440人減少（増減率△2.5%）した。

本市の面積は、406.43km²で、1km²当たりの人口密度は1,091.9人であった。

表1 国勢調査男女別人口、世帯数及び面積の推移（調査時）

実施年	人 口			対前回 人口増減数	対前回 人口増減率	人口性比 (女性100人につき男)	世帯数	面積 1)	人口密度
	総数	男	女						
大正 9年	176,534	90,937	85,597	…	…	106.2	37,039	…	…
14年	189,071	94,346	94,725	12,537	7.1	99.6	40,560	…	…
昭和 5年	204,626	102,563	102,063	15,555	8.2	100.5	…	41.10	4,978.7
10年	211,702	106,258	105,444	7,076	3.5	100.8	…	41.10	5,150.9
15年	252,630	129,150	123,480	40,928	19.3	104.6	51,401	…	…
22年	198,642	98,416	100,226	△ 53,988	△ 21.4	98.2	…	…	…
25年	241,805	118,468	123,337	43,163	21.7	96.1	54,407	92.35	2,618.4
30年	303,724	148,230	155,494	61,919	25.6	95.3	65,274	121.32	2,503.5
35年	344,153	166,713	177,440	40,429	13.3	94.0	81,729	121.32	2,836.7
40年	405,479	193,934	211,545	61,326	17.8	91.7	103,077	207.09	1,958.0
45年	421,114	199,697	221,417	15,635	3.9	90.2	116,899	207.61	2,028.4
50年	450,194	214,005	236,189	29,080	6.9	90.6	134,783	239.65	1,878.5
55年	447,091	211,295	235,796	△ 3,103	△ 0.7	89.6	143,448	240.43	1,859.5
60年	449,382	211,546	237,836	2,291	0.5	88.9	149,453	241.76	1,858.8
平成 2年	444,599	207,651	236,948	△ 4,783	△ 1.1	87.6	156,731	240.77	1,846.6
7年	438,635	204,198	234,437	△ 5,964	△ 1.3	87.1	165,078	241.09	1,819.4
12年	423,167	196,213	226,954	△ 15,468	△ 3.5	86.5	166,391	241.20	1,754.4
17年	442,699 (455,206)	203,292 (209,250)	239,407 (245,956)	19,532 (32,039)	4.6 (7.6)	84.9 (85.1)	179,636 (183,777)	338.72 (406.35)	1,307.0 (1,120.2)
22年	443,766	203,574	240,192	1,067 (△11,440)	0.2 (△2.5)	84.8	187,685	406.43	1,091.9

注) ()は琴海町を含む現市域での組替値。

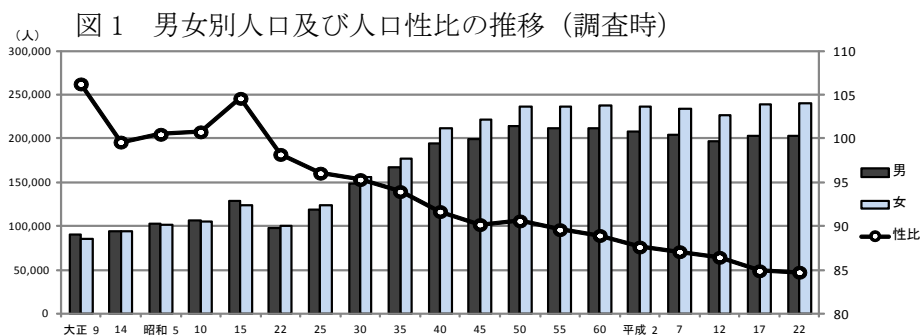
1) 平成17年以前の面積は、各年の国勢調査実施報告による。

※人口性比…女性100人に対する男性の数をいう。 $\text{人口性比} = \frac{\text{男性人口}}{\text{女性人口}} \times 100$

(2) 男女別人口

女性人口の割合が高い長崎市

男女別人口は、男性203,574人、女性240,192人で人口性比は84.8であった。この人口性比は全国の県庁所在市の中で最も低い。



(3) 全国主要都市の状況

長崎市の人口は全国第 38 位

平成 22 年国勢調査における全国都市の人口順位をみると、長崎市は 38 位で平成 17 年の 37 位から順位が下がった。

九州内の県庁所在市では、福岡市（8 位）、熊本市（18 位）、鹿児島市（23 位）、大分市（33 位）、宮崎市（48 位）は平成 17 年と比べて人口が増加しているが、長崎市は減少しており、減少数 11,440 人は全国の市町村の中で減少数の多い順から 5 番目である。佐賀市もまた人口が減少している。（98 位）

表 2 全国都市の状況（人口順位 上位 50 位）-市町村

地域	人口		平成17年～22年の人口増減		面積 km ²	人口密度 人	人口 順位
	平成22年	平成17年 1)	実数	増減率			
特別区部	8,945,695	8,489,653	456,042	5.4	621.83	14,386.1	1
横浜	3,688,773	3,579,628	109,145	3.0	437.38	8,433.8	2
大阪	2,665,314	2,628,811	36,503	1.4	222.47	11,980.6	3
名古屋	2,263,894	2,215,062	48,832	2.2	326.43	6,935.3	4
札幌	1,913,545	1,880,863	32,682	1.7	1,121.12	1,706.8	5
神戸	1,544,200	1,525,393	18,807	1.2	552.66	2,794.1	6
京都	1,474,015	1,474,811	△ 796	△ 0.1	827.9	1,780.4	7
福岡	1,463,743	1,401,279	62,464	4.5	341.32	4,288.5	8
川崎	1,425,512	1,327,011	98,501	7.4	142.7	9,989.6	9
さいたま	1,222,434	1,176,314	46,120	3.9	217.49	5,620.6	10
広島	1,173,843	1,154,391	19,452	1.7	905.41	1,296.5	11
仙台	1,045,986	1,025,126	20,860	2.0	783.54	1,334.9	12
北九州	976,846	993,525	△ 16,679	△ 1.7	487.89	2,002.2	13
千葉	961,749	924,319	37,430	4.0	272.08	3,534.8	14
堺	841,966	830,966	11,000	1.3	149.99	5,613.5	15
新潟	811,901	813,847	△ 1,946	△ 0.2	726.1	1,118.2	16
浜松	800,866	804,032	△ 3,166	△ 0.4	1,558.04	514.0	17
熊本	734,474	727,978	6,496	0.9	389.53	1,885.5	18
相模原	717,544	701,620	15,924	2.3	328.84	2,182.0	19
静岡	716,197	723,323	△ 7,126	△ 1.0	1,411.85	507.3	20
岡山	709,584	696,172	13,412	1.9	789.91	898.3	21
船橋	609,040	569,835	39,205	6.9	85.64	7,111.6	22
鹿児島	605,846	604,367	1,479	0.2	547.06	1,107.5	23
八王子	580,053	560,012	20,041	3.6	186.31	3,113.4	24
姫路	536,270	536,232	38	0.0	534.44	1,003.4	25
松山	517,231	514,937	2,294	0.4	429.05	1,205.5	26
宇都宮	511,739	502,396	9,343	1.9	416.84	1,227.7	27
東大阪	509,533	513,821	△ 4,288	△ 0.8	61.81	8,243.5	28
川口	500,598	480,079	20,519	4.3	55.75	8,979.3	29
松戸	484,457	472,579	11,878	2.5	61.33	7,899.2	30
西宮	482,640	465,337	17,303	3.7	99.37	4,857.0	31
倉敷	475,513	469,377	6,136	1.3	354.72	1,340.5	32
大分	474,094	462,317	11,777	2.5	501.28	945.8	33
市川	473,919	466,608	7,311	1.6	57.49	8,243.5	34
金沢	462,361	454,607	7,754	1.7	467.77	988.4	35
福山	461,357	459,087	2,270	0.5	518.11	890.5	36
尼崎	453,748	462,647	△ 8,899	△ 1.9	49.97	9,080.4	37
長崎	443,766	455,206	△ 11,440	△ 2.5	406.43	1,091.9	38
町田	426,987	405,544	21,443	5.3	71.63	5,961.0	39
富山	421,953	421,239	714	0.2	1,241.85	339.8	40
豊田	421,487	412,141	9,346	2.3	918.47	458.9	41
高松	419,429	418,125	1,304	0.3	375.12	1,118.1	42
横須賀	418,325	426,178	△ 7,853	△ 1.8	100.7	4,154.2	43
岐阜	413,136	413,367	△ 231	△ 0.1	202.89	2,036.3	44
藤沢	409,657	396,014	13,643	3.4	69.51	5,893.5	45
枚方	407,978	404,044	3,934	1.0	65.08	6,268.9	46
柏	404,012	380,963	23,049	6.1	114.9	3,516.2	47
宮崎	400,583	395,593	4,990	1.3	644.61	621.4	48
豊中	389,341	386,623	2,718	0.7	36.38	10,702.1	49
長野	381,511	386,572	△ 5,061	△ 1.3	834.85	457.0	50

1) 平成17年の調査結果は、平成22年10月1日現在の境域に組み替えて集計している。

(4) 県内の市町の人口

大村市、時津町では人口が増加

長崎県の人口を市町別にみると、長崎市の443,766人が最も多く、次いで佐世保市の261,101人、諫早市の140,752人などとなっている。

前回と比べると大村市が2,477人（増減率2.8%）、時津町が983人（同3.4%）増加しているが、そのほかの19市町では減少している。

減少数が最も大きいのは長崎市の11,440人、次いで佐世保市の8,473人、五島市の4,143人となっている。増減率でみると、小値賀町が△12.8%と最も減少率が大きく、次いで新上五島町の△11.8%、対馬市の△10.6%となっている。

表3 長崎県内市町別人口

県,市町名	平成22年			平成17年 ¹⁾			平成17年～22年の人口増減					
	総数		女	総数		女	総数		男		女	
	人	人		人	人		人	人	増減数	増減率	増減数	増減率
長崎県	1,426,779	665,899	760,880	1,478,632	691,444	787,188	△ 51,853	△ 3.5	△ 25,545	△ 3.7	△ 26,308	△ 3.3
長崎市	443,766	203,574	240,192	455,206	209,250	245,956	△ 11,440	△ 2.5	△ 5,676	△ 2.7	△ 5,764	△ 2.3
佐世保市	261,101	122,430	138,671	269,574	126,743	142,831	△ 8,473	△ 3.1	△ 4,313	△ 3.4	△ 4,160	△ 2.9
島原市	47,455	21,985	25,470	50,045	23,205	26,840	△ 2,590	△ 5.2	△ 1,220	△ 5.3	△ 1,370	△ 5.1
諫早市	140,752	66,192	74,560	144,034	68,154	75,880	△ 3,282	△ 2.3	△ 1,962	△ 2.9	△ 1,320	△ 1.7
大村市	90,517	42,952	47,565	88,040	41,896	46,144	2,477	2.8	1,056	2.5	1,421	3.1
平戸市	34,905	16,187	18,718	38,389	17,826	20,563	△ 3,484	△ 9.1	△ 1,639	△ 9.2	△ 1,845	△ 9.0
松浦市	25,145	11,914	13,231	26,993	12,764	14,229	△ 1,848	△ 6.8	△ 850	△ 6.7	△ 998	△ 7.0
対馬市	34,407	16,705	17,702	38,481	18,678	19,803	△ 4,074	△ 10.6	△ 1,973	△ 10.6	△ 2,101	△ 10.6
壱岐市	29,377	13,917	15,460	31,414	14,782	16,632	△ 2,037	△ 6.5	△ 865	△ 5.9	△ 1,172	△ 7.0
五島市	40,622	18,782	21,840	44,765	20,610	24,155	△ 4,143	△ 9.3	△ 1,828	△ 8.9	△ 2,315	△ 9.6
西海市	31,176	15,156	16,020	33,680	16,239	17,441	△ 2,504	△ 7.4	△ 1,083	△ 6.7	△ 1,421	△ 8.1
雲仙市	47,245	22,262	24,983	49,998	23,607	26,391	△ 2,753	△ 5.5	△ 1,345	△ 5.7	△ 1,408	△ 5.3
南島原市	50,363	23,281	27,082	54,045	25,084	28,961	△ 3,682	△ 6.8	△ 1,803	△ 7.2	△ 1,879	△ 6.5
長与町	42,535	20,006	22,529	42,655	20,204	22,451	△ 120	△ 0.3	△ 198	△ 1.0	78	0.3
時津町	30,110	14,457	15,653	29,127	14,049	15,078	983	3.4	408	2.9	575	3.8
東彼杵町	8,903	4,158	4,745	9,657	4,537	5,120	△ 754	△ 7.8	△ 379	△ 8.4	△ 375	△ 7.3
川棚町	14,651	6,922	7,729	15,158	7,094	8,064	△ 507	△ 3.3	△ 172	△ 2.4	△ 335	△ 4.2
波佐見町	15,227	7,124	8,103	15,367	7,193	8,174	△ 140	△ 0.9	△ 69	△ 1.0	△ 71	△ 0.9
小値賀町	2,849	1,313	1,536	3,268	1,495	1,773	△ 419	△ 12.8	△ 182	△ 12.2	△ 237	△ 13.4
佐々町	13,599	6,343	7,256	13,697	6,339	7,358	△ 98	△ 0.7	4	0.1	△ 102	△ 1.4
新上五島町	22,074	10,239	11,835	25,039	11,695	13,344	△ 2,965	△ 11.8	△ 1,456	△ 12.4	△ 1,509	△ 11.3

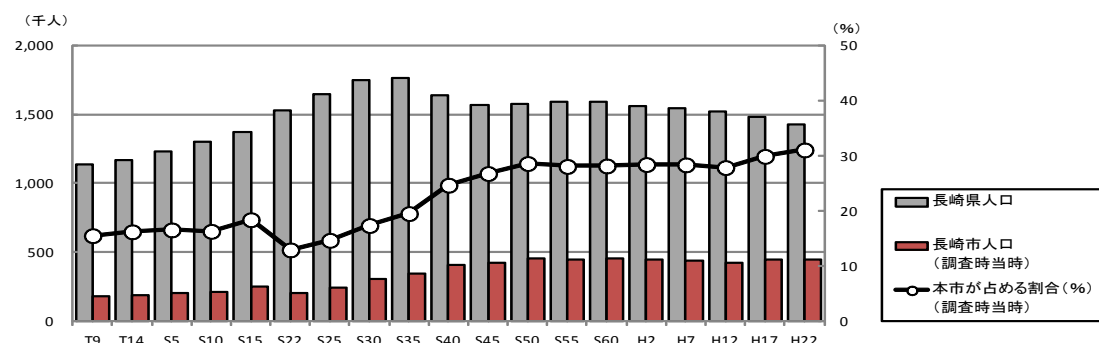
1) 平成17年の調査結果は、平成22年10月1日現在の境域に組み替えて集計している。

(5) 県内人口に占める長崎市の人口

長崎市の人口は県内人口の31.1%を占める

県内の人口に占める長崎市の人口の割合は大正9年の第1回調査では15.5%であったが、平成22年は31.1%で平成17年の29.9%より0.2ポイント上昇した。

図2 長崎県、長崎市の人口及び長崎市が県内人口に占める割合の推移（調査時）



(6) 年齢別人口

進む少子高齢化、65歳以上が25.0%

総人口を年齢3区分別にみると、15歳未満人口は55,317人(構成比12.5%)、15歳～64歳人口は275,191人(同62.4%)、65歳以上人口は110,405人(同25.0%)となっている。

前回と比べると、15歳未満人口は5,522人減、15～64歳人口は16,111人減、65歳以上人口は7,581人増となっている。

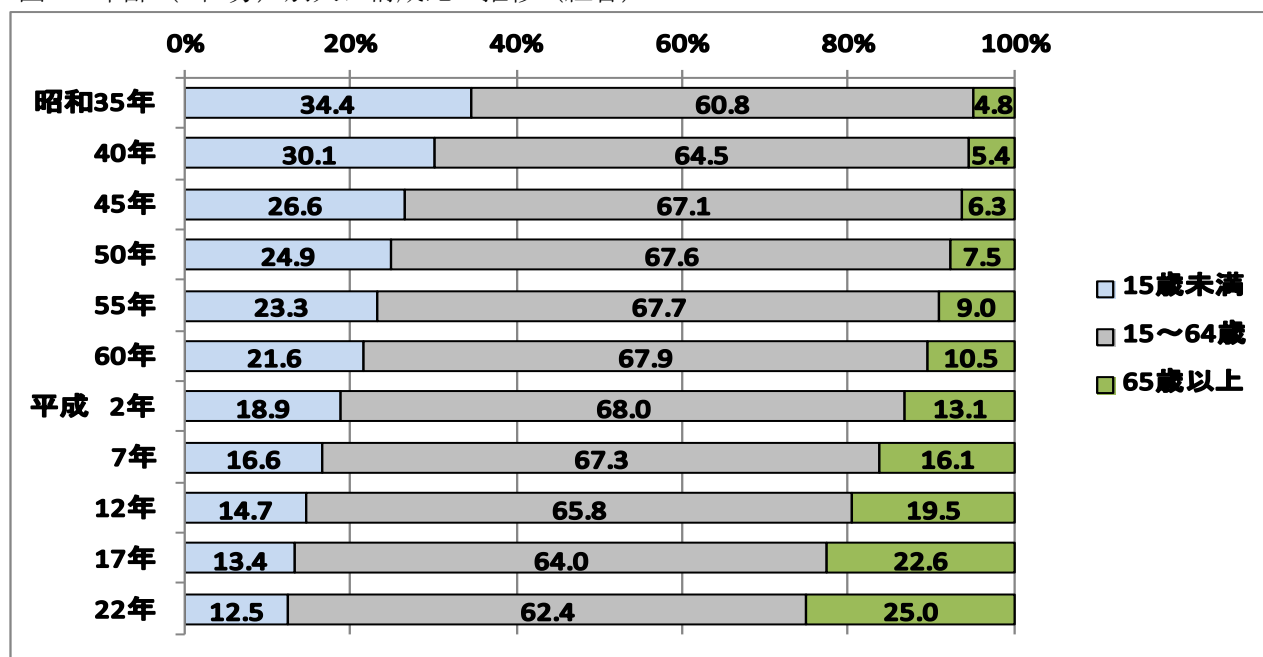
また、総人口に占める割合は、15歳未満人口が13.4%から12.5%に低下、15～64歳人口が64.0%から62.4%に低下、65歳以上人口が22.6%から25.0%に上昇している。

表4 年齢(3区分)別人口の推移(組替)

年次	実数				増減数			構成比		
	総数	15歳未満	15～64歳	65歳以上	15歳未満	15～64歳	65歳以上	15歳未満	15～64歳	65歳以上
	人	人	人	人	人	人	人	%	%	%
昭和35年	467,835	160,972	284,453	22,410	—	—	—	34.4	60.8	4.8
40年	483,303	145,350	311,652	26,301	△ 15,622	27,199	3,891	30.1	64.5	5.4
45年	494,358	131,593	331,628	31,137	△ 13,757	19,976	4,836	26.6	67.1	6.3
50年	505,835	126,141	341,668	37,968	△ 5,452	10,040	6,831	24.9	67.6	7.5
55年	502,799	117,100	340,511	44,997	△ 9,041	△ 1,157	7,029	23.3	67.7	9.0
60年	505,566	109,206	343,083	53,161	△ 7,894	2,572	8,164	21.6	67.9	10.5
平成 2年	494,032	93,236	335,759	64,569	△ 15,970	△ 7,324	11,408	18.9	68.0	13.1
7年	487,063	80,779	327,705	78,291	△ 12,457	△ 8,054	13,722	16.6	67.3	16.1
12年	470,135	68,945	309,308	91,736	△ 11,834	△ 18,397	13,445	14.7	65.8	19.5
17年	455,206	60,839	291,302	102,824	△ 8,106	△ 18,006	11,088	13.4	64.0	22.6
22年	443,766	55,317	275,191	110,405	△ 5,522	△ 16,111	7,581	12.5	62.4	25.0

注) 表中の総数には年齢「不詳」を含むが、構成比の算出に当たっては総数から年齢「不詳」を除外している。

図3 年齢(3区分)別人口構成比の推移(組替)



(7) 全国、長崎県、九州内県庁所在市の年齢3区分別人口

長崎市は15歳未満の割合が最も低く、65歳以上人口の割合が最も高い

年齢3区分別人口を全国、長崎県と比べると、本市は15歳未満の人口の割合が低くなっている。

また、九州内の県庁所在市と比べると、前回調査で本市は15歳未満人口の割合が13.4%と最も低く、65歳以上人口の割合が22.6%と最も高くなっていたが、今回も本市の15歳未満人口の割合は12.5%と最も低く、65歳以上人口の割合は25.0%と最も高くなっている。

表5 年齢（3区分）別人口及び構成比－全国、長崎県、九州内の県庁所在市（組替）

地区	実数						構成比 1)					
	平成22年			平成17年			平成22年			平成17年		
	15歳未満	15～64歳	65歳以上	15歳未満	15～64歳	65歳以上	15歳未満	15～64歳	65歳以上	15歳未満	15～64歳	65歳以上
全 国	16,803,444	81,031,800	29,245,685	17,521,234	84,092,414	25,672,005	13.2	63.8	23.0	13.8	66.1	20.2
長 崎 県	193,428	857,416	369,290	215,987	913,224	348,820	13.6	60.4	26.0	14.6	61.8	23.6
長 崎 市	55,317	275,191	110,405	60,839	291,302	102,824	12.5	62.4	25.0	13.4	64.0	22.6
福 岡 市	191,824	997,884	254,085	187,960	983,585	213,380	13.3	69.1	17.6	13.6	71.0	15.4
佐 賀 市	33,762	147,400	54,548	36,502	154,596	50,175	14.3	62.5	23.1	15.1	64.1	20.8
熊 本 市	105,410	468,350	152,435	108,050	480,781	138,031	14.5	64.5	21.0	14.9	66.1	19.0
大 分 市	67,997	306,279	95,843	68,878	310,820	81,479	14.5	65.1	20.4	14.9	67.4	17.7
宮 崎 市	58,326	254,185	85,048	60,027	261,128	73,933	14.7	63.9	21.4	15.2	66.1	18.7
鹿 児 島 市	84,416	388,674	127,446	87,591	403,208	113,505	14.1	64.7	21.2	14.5	66.7	18.8

1) 年齢「不詳」を除外して算出している。

(8) 県内市町の年齢3区分別人口

15歳未満人口と15～64歳人口の割合が高い大村市、長与町、時津町

県内の市町について年齢3区分別人口をみると、15歳未満人口の割合が最も高いのは時津町（構成比17.1%）で、次いで大村市（同16.9%）、長与町（同16.7%）などとなっている。

また、65歳以上人口の割合が最も高いのは小値賀町（同43.4%）で、次いで新上五島町（同33.4%）、五島市（同33.4%）などとなっている。

表6 年齢（3区分）別人口－県内市町

市町名	実数				構成比			平均年齢
	総数	15歳未満	15～64歳	65歳以上	15歳未満	15～64歳	65歳以上	
		人	人	人	人	%	%	
長 崎 市	443,766	55,317	275,191	110,405	12.5	62.4	25.0	46.6
佐 世 保 市	261,101	35,525	156,652	66,705	13.7	60.5	25.8	46.4
島 原 市	47,455	6,361	27,120	13,878	13.4	57.3	29.3	48.7
諫 早 市	140,752	20,146	87,201	32,811	14.4	62.2	23.4	45.3
大 村 市	90,517	15,241	56,821	18,096	16.9	63.0	20.1	42.5
平 戸 市	34,905	4,476	18,850	11,579	12.8	54.0	33.2	50.8
松 浦 市	25,145	3,360	14,198	7,523	13.4	56.6	30.0	49.0
対 馬 市	34,407	4,837	19,435	10,135	14.1	56.5	29.5	48.9
老 岐 市	29,377	4,178	15,855	9,342	14.2	54.0	31.8	49.6
五 島 市	40,622	4,807	22,242	13,545	11.8	54.8	33.4	51.6
西 海 市	31,176	3,710	17,501	9,965	11.9	56.1	32.0	50.3
雲 仙 市	47,245	6,310	27,283	13,609	13.4	57.8	28.8	48.3
南 島 原 市	50,363	6,361	27,737	16,255	12.6	55.1	32.3	50.4
長 与 町	42,535	7,058	27,075	8,068	16.7	64.2	19.1	42.4
時 津 町	30,110	5,156	19,415	5,538	17.1	64.5	18.4	41.5
東 彼 杵 町	8,903	1,027	5,157	2,716	11.5	57.9	30.5	49.9
川 棚 町	14,651	2,186	8,757	3,676	15.0	59.9	25.1	46.0
波 佐 見 町	15,227	2,146	9,191	3,887	14.1	60.4	25.5	46.4
小 値 賀 町	2,849	232	1,380	1,237	8.1	48.4	43.4	57.7
佐 々 町	13,599	2,251	8,406	2,938	16.6	61.8	21.6	44.0
新上五島町	22,074	2,743	11,949	7,382	12.4	54.1	33.4	51.4

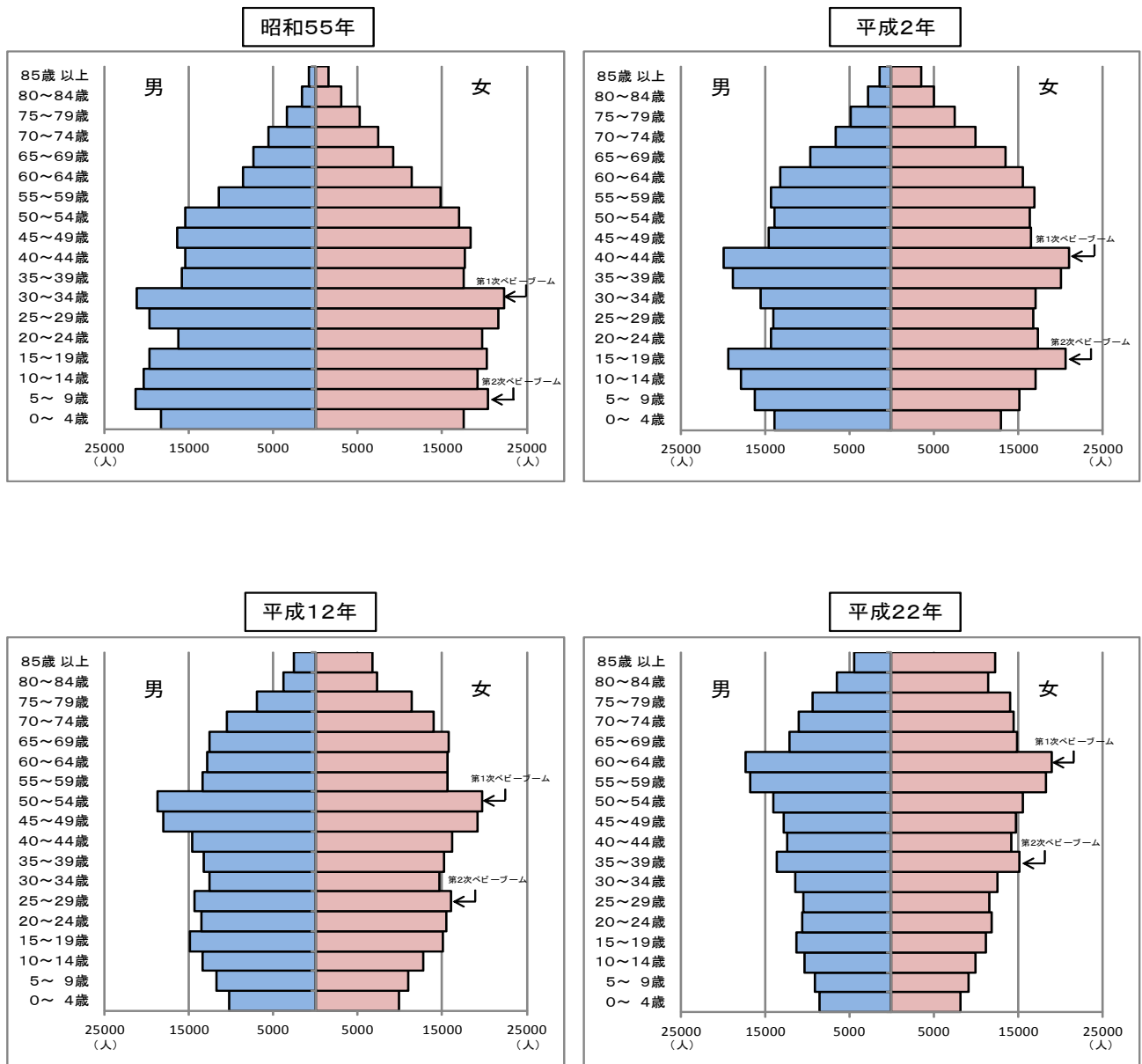
注) 表中の総数には年齢「不詳」を含むが、構成比の算出に当たっては総数から年齢「不詳」を除外している。

(9) 人口ピラミッド

つぼ型に近い人口ピラミッド

過去30年の人口ピラミッドの推移をみると、昭和55年はピラミッドのすそ野の広がりのない「つりかね型」に近く、平成2年では40～44歳世代（第1次ベビーブーム世代）と15～19歳世代（第2次ベビーブーム世代）が大きく膨らむ「ひょうたん型」のような形状となった。平成12年以降は第2次ベビーブーム世代の膨らみも小さくなり「つぼ型」に近づいている。

図4 人口ピラミッドの推移（組替）

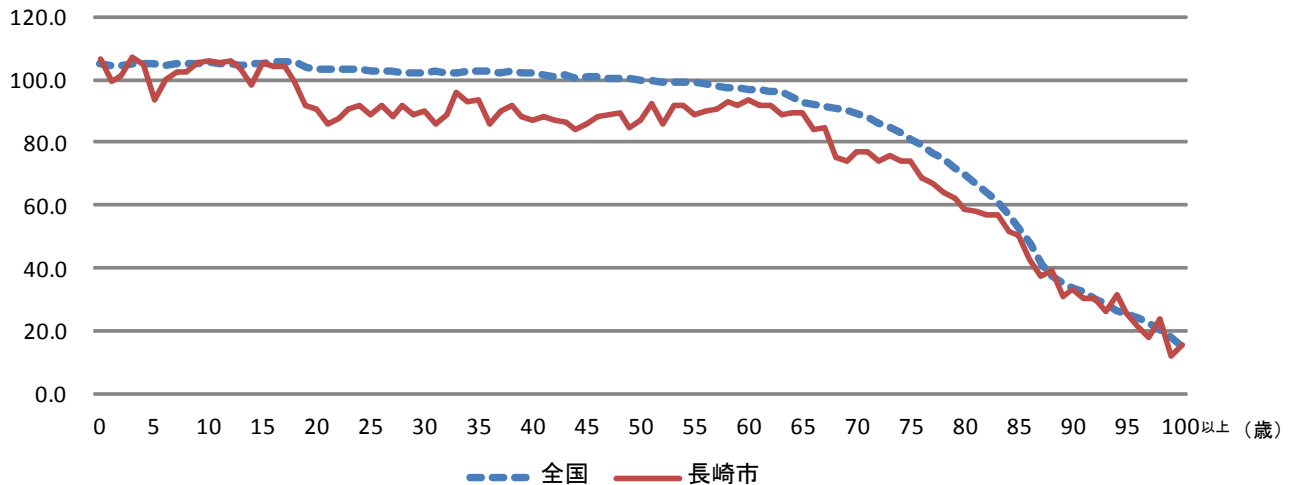


(10) 年齢別性比

18歳以上のすべての年齢で女性人口が男性人口を上回る

年齢別の人口性比（女性人口 100 人に対する男性の数）をみると、全国値では 0～49 歳までは 100 を上回っており、50 歳以上の年齢で 100 を下回るのに比べて、本市の場合 18 歳以上のすべての年齢で 100 を下回っている。

図 5 年齢別性比—全国、長崎市



(11) 合併地域の人口

人口の減少率は旧高島町で△31.0%

平成 17、18 年に合併した市町（以下「合併地域」という。）別に人口の推移をみると、平成 12 年から平成 17 年、平成 17 年から平成 22 年にかけて、すべての地区で人口が減少している。

平成 17 年から平成 22 年にかけての増減率を減少率の高い順にみると、旧高島町が△31.0%と最も大きく、旧野母崎町△11.6%、旧伊王島町△11.4%、旧外海町△10.8%などとなっている。

表 7 人口の推移—合併地域

地区	人口総数			平成17年～平成22年の増減		平成12年～平成17年の増減	
	平成22年	平成17年	平成12年	増減数	増減率	増減数	増減率
	人	人	人	人	%	人	%
長崎市（組替）	443,766	455,206	470,135	△ 11,440	△ 2.5	△ 14,929	△ 3.2
旧長崎市	404,474	413,007	423,167	△ 8,533	△ 2.1	△ 10,160	△ 2.4
旧香焼町	3,923	4,196	4,512	△ 273	△ 6.5	△ 316	△ 7.0
旧伊王島町	715	807	1,035	△ 92	△ 11.4	△ 228	△ 22.0
旧高島町	498	722	900	△ 224	△ 31.0	△ 178	△ 19.8
旧野母崎町	6,016	6,809	8,101	△ 793	△ 11.6	△ 1,292	△ 15.9
旧三和町	11,322	12,044	12,366	△ 722	△ 6.0	△ 322	△ 2.6
旧琴海町	12,257	12,507	12,649	△ 250	△ 2.0	△ 142	△ 1.1
旧外海町	4,561	5,114	7,405	△ 553	△ 10.8	△ 2,291	△ 30.9

(12) 合併地域の年齢3区分別人口

旧高島町では65歳以上人口の割合が54.0%

合併地域の年齢3区分別人口を構成比で比べると、15歳未満人口については旧琴海町が13.2%と最も高く、次いで旧香焼町の13.1%、旧長崎市の12.8%となっている。15～64歳人口については旧長崎市の62.8%が最も高く、次いで旧三和町の62.1%、旧琴海町の61.2%となっている。65歳以上人口については、旧高島町の54.0%が最も高く、次いで旧伊王島町の47.3%、旧外海町の44.4%となっている。

表8 年齢(3区分)別人口－合併地域

地区	平成22年								平成17年							
	総数	15歳未満		15～64歳		65歳以上		総数	15歳未満		15～64歳		65歳以上			
		人	人	%	人	%	人		%	人	人	%	人	%		
旧長崎市	404,474	51,221	12.8	252,377	62.8	98,073	24.4	413,007	55,749	13.5	266,142	64.5	90,875	22.0		
旧香焼町	3,923	515	13.1	2,372	60.5	1,034	26.4	4,196	576	13.7	2,599	61.9	1,021	24.3		
旧伊王島町	715	40	5.6	337	47.1	338	47.3	807	61	7.6	388	48.1	358	44.4		
旧高島町	498	15	3.0	214	43.0	269	54.0	722	49	6.8	338	46.8	335	46.4		
旧野母崎町	6,016	474	7.9	3,209	53.4	2,331	38.8	6,809	661	9.7	3,730	54.8	2,418	35.5		
旧三和町	11,322	1,075	9.5	7,020	62.1	3,215	28.4	12,044	1,332	11.1	7,754	64.4	2,958	24.6		
旧琴海町	12,257	1,616	13.2	7,486	61.2	3,123	25.5	12,507	1,907	15.2	7,810	62.4	2,790	22.3		
旧外海町	4,561	361	7.9	2,176	47.7	2,022	44.4	5,114	504	9.9	2,541	49.7	2,069	40.5		

注) 表中の総数には年齢「不詳」を含むが、構成比の算出に当たっては総数から年齢「不詳」を除外している。

(13) 外国人人口

外国人は2,323人で、前回より247人の増

本市に居住する外国人は2,323人で、前回より247人増加した。総人口に占める外国人人口の割合は0.5%となっており、国籍別では中国が1,231人と最も多い。

表9 国籍、男女別外国人数

国籍	平成22年			平成17年 総数	増減数	増減率
	総数	男	女			
総数	2,323	1,082	1,241	2,076	247	11.9
韓国, 朝鮮	284	131	153	289	△5	△1.7
中国	1,231	542	689	1,169	62	5.3
フィリピン	139	43	96	119	20	16.8
タイ	23	7	16	20	3	15.0
インドネシア	22	8	14	42	△20	△47.6
ベトナム	33	16	17	26	7	26.9
イギリス	29	19	10	37	△8	△21.6
アメリカ	62	41	21	70	△8	△11.4
ブラジル	5	1	4	11	△6	△54.5
ペルー	4	1	3	5	△1	△20.0
その他 1)	491	273	218	288	203	70.5

1) 無国籍及び国名「不詳」を含む。

世帯

(1) 世帯数、世帯規模

総世帯数は187,685世帯で前回より3,908世帯の増

平成22年国勢調査による本市の総世帯数は、187,685世帯で、前回より3,908世帯の増であった。

世帯の種類別にみると、一般世帯数は187,267世帯、一般世帯人員は430,502人で一般世帯の1世帯当たり人員は2.30人となっている。なお、施設等の世帯数は418世帯、施設等の世帯人員は13,264人となっている。

一般世帯数の推移を平成2年以降についてみると、一貫して増加している。また、一般世帯の1世帯当たりの人員の推移をみると、一貫して減少しており、平成17年と22年の比較では2.41人から2.30人に減少している。

表10 総世帯数、一般世帯数、一般世帯人員、一般世帯の1世帯当たり人員、施設等の世帯数及び施設等の世帯人員の推移（組替）

年次		総世帯 1)	一般世帯			施設等の世帯	
		世帯数	世帯数	世帯人員	1世帯当たり人員	世帯数	世帯人員
実数	平成 2年	172,990	172,294	482,024	2.80	311	11,540
	7年	181,714	181,144	475,465	2.62	316	11,310
	12年	183,285	182,831	458,694	2.51	338	11,295
	17年	183,777	183,164	442,178	2.41	387	12,787
	22年	187,685	187,267	430,502	2.30	418	13,264
増減数	平成 2年 ~ 7年	8,724	8,850	△ 6,559	△ 0.17	5	△ 230
	7年 ~ 12年	1,571	1,687	△ 16,771	△ 0.12	22	△ 15
	12年 ~ 17年	492	333	△ 16,516	△ 0.09	49	1,492
	17年 ~ 22年	3,908	4,103	△ 11,676	△ 0.12	31	477
増減率 (%)	平成 2年 ~ 7年	5.0	5.1	△ 1.4	△ 6.2	1.6	△ 2.0
	7年 ~ 12年	0.9	0.9	△ 3.5	△ 4.4	7.0	△ 0.1
	12年 ~ 17年	0.3	0.2	△ 3.6	△ 3.8	14.5	13.2
	17年 ~ 22年	2.1	2.2	△ 2.6	△ 4.8	8.0	3.7

1) 世帯の種類「不詳」を含む。

世帯人員が1人の世帯が63,159世帯と最も多く、一般世帯の3割を超える

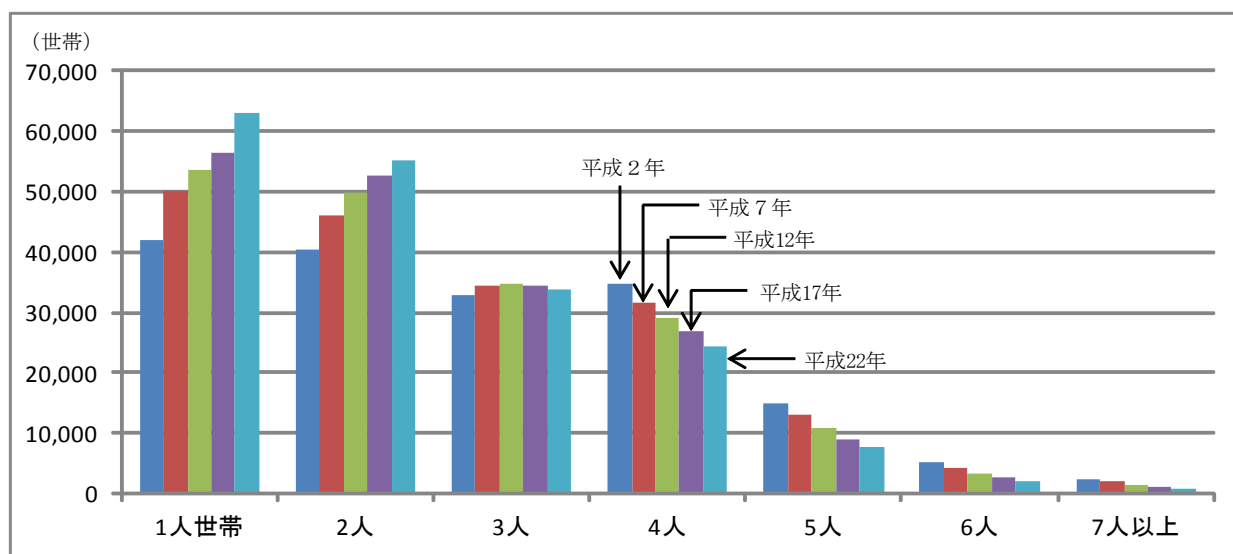
一般世帯数（187,267世帯）を世帯人員別にみると、1人世帯が63,159世帯（一般世帯の33.7%）と最も多く、世帯人員が多くなるほど世帯数は少なくなっている。

平成17年～22年の増減をみると、世帯人員が少なくなるほど増加率が高くなっており、世帯人員が2人以下の世帯では増加しているのに対し、3人以上の世帯ではいずれも減少しており、特に5人以上の世帯では10%以上減少している。

表11 世帯人員別一般世帯数の推移（平成2年～22年）（組替）

年次		総数	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人以上
実数 (世帯)	平成 2年	172,294	41,975	40,529	32,837	34,740	14,797	5,065	2,351
	7年	181,144	50,093	46,165	34,280	31,459	12,990	4,255	1,902
	12年	182,831	53,463	49,958	34,629	29,035	10,993	3,356	1,397
	17年	183,164	56,322	52,637	34,474	26,802	9,118	2,683	1,128
	22年	187,267	63,159	55,159	33,836	24,261	7,817	2,172	863
増減数	平成 2年～7年	8,850	8,118	5,636	1,443	△ 3,281	△ 1,807	△ 810	△ 449
	7年～12年	1,687	3,370	3,793	349	△ 2,424	△ 1,997	△ 899	△ 505
	12年～17年	333	2,859	2,679	△ 155	△ 2,233	△ 1,875	△ 673	△ 269
	17年～22年	4,103	6,837	2,522	△ 638	△ 2,541	△ 1,301	△ 511	△ 265
増減率 (%)	平成 2年～7年	5.1	19.3	13.9	4.4	△ 9.4	△ 12.2	△ 16.0	△ 19.1
	7年～12年	0.9	6.7	8.2	1.0	△ 7.7	△ 15.4	△ 21.1	△ 26.6
	12年～17年	0.2	5.3	5.4	△ 0.4	△ 7.7	△ 17.1	△ 20.1	△ 19.3
	17年～22年	2.2	12.1	4.8	△ 1.9	△ 9.5	△ 14.3	△ 19.0	△ 23.5
割合 (%)	平成 2年	100.0	24.4	23.5	19.1	20.2	8.6	2.9	1.4
	7年	100.0	27.7	25.5	18.9	17.4	7.2	2.3	1.0
	12年	100.0	29.2	27.3	18.9	15.9	6.0	1.8	0.8
	17年	100.0	30.7	28.7	18.8	14.6	5.0	1.5	0.6
	22年	100.0	33.7	29.5	18.1	13.0	4.2	1.2	0.5

図6 世帯人員別一般世帯数の推移（平成2年～22年）（組替）



(2) 全国、長崎県、九州内県庁所在市の一般世帯の世帯人員別構成比

本市の1人世帯の割合は、全国、長崎県より高い

一般世帯の世帯人員別構成比を全国、長崎県と比較すると、本市は1人世帯の割合が高く、3人以上の世帯の割合が低くなっている。

また、九州内の県庁所在市をみると、1人世帯の割合が最も高いのは福岡市（構成比47.7%）で、次いで鹿児島市（同36.6%）、熊本市（同34.9%）、長崎市（33.7%）の順となっている。

表12 一般世帯の世帯人員別構成比 — 全国、長崎県、九州内県庁所在市

地区	総数	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人以上
	%	%	%	%	%	%	%	%
全 国	100.0	32.4	27.2	18.2	14.4	5.0	1.9	1.0
長 崎 県	100.0	29.4	30.0	18.4	13.4	5.3	2.1	1.3
長 崎 市	100.0	33.7	29.5	18.1	13.0	4.2	1.2	0.5
福 岡 市	100.0	47.7	22.4	14.6	11.1	3.2	0.7	0.3
佐 賀 市	100.0	30.9	25.9	18.1	14.2	6.4	2.8	1.7
熊 本 市	100.0	34.9	25.8	17.8	14.1	5.0	1.6	0.9
大 分 市	100.0	32.4	28.0	18.6	14.6	4.7	1.3	0.5
宮 崎 市	100.0	33.6	29.5	17.7	13.3	4.4	1.0	0.4
鹿 児 島 市	100.0	36.6	28.2	17.2	12.9	4.2	0.7	0.2

(3) 合併地域の一般世帯の世帯人員

旧高島町では1人世帯が一般世帯の56.6%を占める

合併地域の一般世帯の世帯人員をみると、旧長崎市、旧伊王島町、旧高島町、旧外海町では1人世帯の占める割合が最も高く、旧高島町では56.6%、旧伊王島町では47.5%と特に高くなっている。

また、旧香焼町、旧野母崎町、旧三和町、旧琴海町では2人世帯の占める割合が最も高い。

表13 一般世帯の世帯人員別世帯数 — 合併地域

地区	総数	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人以上	
実 数 (世 帯)	旧 長 崎 市	172,144	59,304	49,924	30,957	22,289	7,023	1,923	724
	旧 香 焼 町	1,584	455	479	302	233	78	27	10
	旧 伊 王 島 町	408	194	153	40	13	7	1	-
	旧 高 島 町	311	176	108	21	2	4	-	-
	旧 野 母 崎 町	2,581	747	954	479	257	95	31	18
	旧 三 和 町	3,999	799	1,432	874	618	205	50	21
	旧 琴 海 町	4,368	808	1,467	901	666	343	106	77
	旧 外 海 町	1,872	676	642	262	183	62	34	13
割 合 (%)	旧 長 崎 市	100.0	34.5	29.0	18.0	12.9	4.1	1.1	0.4
	旧 香 焼 町	100.0	28.7	30.2	19.1	14.7	4.9	1.7	0.6
	旧 伊 王 島 町	100.0	47.5	37.5	9.8	3.2	1.7	0.2	-
	旧 高 島 町	100.0	56.6	34.7	6.8	0.6	1.3	-	-
	旧 野 母 崎 町	100.0	28.9	37.0	18.6	10.0	3.7	1.2	0.7
	旧 三 和 町	100.0	20.0	35.8	21.9	15.5	5.1	1.3	0.5
	旧 琴 海 町	100.0	18.5	33.6	20.6	15.2	7.9	2.4	1.8
	旧 外 海 町	100.0	36.1	34.3	14.0	9.8	3.3	1.8	0.7

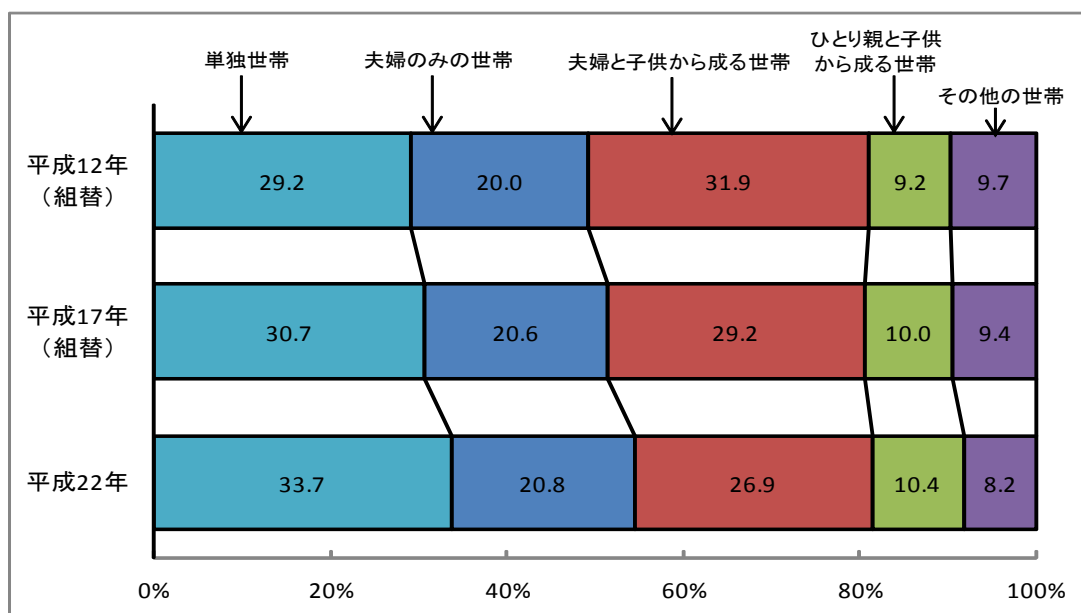
(4) 世帯の種類・家族類型

前回に引き続き単独世帯が最も多い家族類型

一般世帯を家族類型別にみると、「単独世帯」（一人暮らし世帯）は63,159世帯（一般世帯の33.7%）、「夫婦と子供から成る世帯」は50,317世帯（同26.9%）、「夫婦のみの世帯」は38,887世帯（同20.8%）、「ひとり親と子供から成る世帯」は19,454世帯（同10.4%）などとなっている。

前回と比べると、「単独世帯」の一般世帯に占める割合は30.7%から33.7%に、「ひとり親と子供から成る世帯」は10.0%から10.4%に上昇している。一方「夫婦と子供から成る世帯」は29.2%から26.9%に低下している。

図7 一般世帯の家族類型の推移



注) 平成17年の数値は、新分類区分による遡及集計結果による。

表14 世帯の家族類型別一般世帯数の推移 (平成12年～22年)

一般世帯の家族類型	世帯数			構成比		
	平成22年	平成17年 (組替)	平成12年 (組替)	平成22年	平成17年 (組替)	平成12年 (組替)
総数 1)	187,267	183,164	182,831	100.0	100.0	100.0
単独世帯	63,159	56,322	53,463	33.7	30.7	29.2
核家族世帯	108,658	109,576	111,690	58.0	59.8	61.1
夫婦のみの世帯	38,887	37,674	36,612	20.8	20.6	20.0
夫婦と子供から成る世帯	50,317	53,548	58,248	26.9	29.2	31.9
ひとり親と子供から成る世帯	19,454	18,354	16,830	10.4	10.0	9.2
その他の世帯	15,419	17,266	17,678	8.2	9.4	9.7

注) 平成17年の数値は、新分類区分による遡及集計結果による。

1) 世帯の家族類型「不詳」を含む。

(5) 高齢者世帯

高齢者のいる世帯は 38.4%、高齢夫婦・高齢単身世帯は 22.4%

65歳以上世帯員のいる世帯の推移を平成2年以降についてみると、一貫して増加しており平成22年は71,956世帯（一般世帯の38.4%）となっている。

高齢夫婦世帯は、20,682世帯で、前回よりも1,333世帯（6.9%増）増加している。

高齢単身世帯は21,294世帯で、前回よりも2,604世帯（13.9%増）増加している。

表15 65歳以上の世帯員のいる一般世帯、高齢夫婦世帯、高齢単身世帯

年次	一般世帯 総数	65歳以上世帯員のいる一般世帯 (H17までは、65歳以上親族のいる一般世帯)			(再掲)					
		総数	対前回 増減率	対一般世帯 構成比	高齢夫婦 世帯			高齢単身 世帯		
					世帯	対前回 増減率	対一般世帯 構成比	世帯	対前回 増減率	対一般世帯 構成比
平成2年（組替）	172,294	45,434	-	26.4	10,735	-	6.2	9,791	-	5.7
平成7年（組替）	181,144	54,127	19.1	29.9	14,255	32.8	7.9	12,857	31.3	7.1
平成12年（組替）	182,831	62,122	14.8	34.0	17,271	21.2	9.4	16,384	27.4	9.0
平成17年（組替）	183,164	67,622	8.9	36.9	19,349	12.0	10.6	18,690	14.1	10.2
平成22年	187,267	71,956	1)	38.4	20,682	6.9	11.0	21,294	13.9	11.4

1) 集計方法が変更となったため時系列での比較ができない。（～H17：「65歳以上親族のいる一般世帯」、H22～：「65歳以上世帯員のいる一般世帯」）

(6) 母子世帯・父子世帯

母子世帯は3,451世帯、父子世帯は291世帯となっており、前回と比べると母子世帯が84世帯（世帯人員256人減）、父子世帯が44世帯（世帯人員126人減）減少した。

表16 母子世帯の世帯数、世帯人員の推移

年次	母子世帯		(再掲)					
			6歳未満世帯員のいる一般世帯 (H17までは6歳未満親族のいる一般世帯)			18歳未満世帯員のいる一般世帯 (H17までは18歳未満親族のいる一般世帯)		
	世帯数	世帯人員	世帯数	世帯人員	6歳未満 世帯人員	世帯数	世帯人員	18歳未満 世帯人員
平成12年（組替）	3,296	8,698	625	1,714	746	2,992	8,074	4,795
17年（組替）	3,535	9,302	728	2,019	850	3,256	8,730	5,142
22年	3,451	9,046	557	1,569	644	3,204	8,541	5,012

表17 父子世帯の世帯数、世帯人員の推移

年次	父子世帯		(再掲)					
			6歳未満世帯員のいる一般世帯 (H17までは6歳未満親族のいる一般世帯)			18歳未満世帯員のいる一般世帯 (H17までは18歳未満親族のいる一般世帯)		
	世帯数	世帯人員	世帯数	世帯人員	6歳未満 世帯人員	世帯数	世帯人員	18歳未満 世帯人員
平成12年（組替）	366	962	39	112	42	315	858	501
17年（組替）	335	858	32	92	40	297	782	456
22年	291	732	20	56	22	248	645	371